

認知症ケアにAI活用

「みんなの情報学会」中区で大会

静岡大の教授らにより昨年十一月に発足した「みんなの認知症情報学会」の第一回年次大会が一日、浜松市中区の同大浜松キャンパスで始まった。二日までの二日間、当事者や医療、介護の関係者、技術者ら約三百人が専門分野の垣根を越え、AIやIoT（モノのインターネット）技術を活用した認知症ケアの取り組みを学び、課題について考える。

基調講演では、AIを利活用したサービスで超高齢



化社会の課題解決を目指す「エクサウイザーズ」（東京都）の石山洗さん〓写真〓が「人工知能でつながる超高齢社会の私の力、みんなの力」と題して登壇した。

ベテランの介護場面を映した動画データから介護者の目線や対象者との距離感などをAIに分析させるといった、ベテランの手法を初心者に教える取り組みを紹介。「社会をより良くするようなAIを作りたい」と話した。

大会は初開催で、初日は「地域包括ケアシステムの構築とまちづくり」と題するシンポジウムなどもあった。

二日目は、当事者視点を重視した生活環境デザイン

について語り合う特別セッションや、当事者や家族を交えたシンポジウムなどが開かれる。
（飯田樹与）